

平成28年度学校評価報告書(自己評価)

<p>本年度の重点目標</p> <p>○〔重点目標1〕 自ら学び自ら考える子どもの育成(い:意欲のある子ども)知 【学力向上プランの実践】</p> <p>○〔重点目標2〕 楽しく頑張る子どもの育成(け:健康な子ども)体 【体力向上プランの実践・挨拶運動の実践】</p> <p>○〔重点目標3〕 美しい心を持ち、自分も友だちも大切に子ども(だ:団結力のある子ども)徳 【いじめ問題解決のための取組・特別支援教育推進のための取り組み】</p>

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点目標1	「わかる授業」づくりに努める。	主題研究(算数科)を中核として校内研修を推進し、全教職員が研究授業を実施し、協議会で意見交換することにより、教職員一人一人の力量を高めた。少人数指導等、学習形態や指導方法を工夫研究し、児童の学力が高まるように授業改善を行った。	B	成果は、具体的な操作活動やワークシートの活用により、自分の考えを絵や文字、図等を用いて考える児童が増えた。また、発表の仕方をマニュアル化することで自信を持って発表する児童が増えた。課題は、1時間の授業で、個人、ペア、グループ、全体交流、適応問題を入れることが難しかった。児童の意欲を高めたまま、授業効率化を図ることが必要である。
	基礎・基本の能力の定着を図る取組を展開する。	校長、教頭、教務、国庫少人数、支援加配が、毎日ドリルタイムで指導した。ひまわりの暗唱、九九等の点検を管理職が毎日行った。計算が苦手な1・2年生児童に対して週2回の補修学習(キラタイム)を実施した。6年生の算数のまとめでは、1学級を3つに分けて指導した。ひまわり学習塾を活用した。	A	校長、教頭、教務主任もドリルタイムに参加したり、1・2年生児童の計算の基礎ができていない児童を対象にしたキラキラタイムを活用したりしたことにより、計算力が伸びた。6年生の算数のまとめ学習では、1学級を、3分割して指導した。これらの取り組みにより、算数科の学力はほとんどの学年で昨年度よりも向上した。
	「言葉の力」を高める学習活動の推進	国語の始業時や、朝の会、朝自習等に「ひまわり」の暗唱に取り組んだ。また、毎週水曜日のボランティアやブックヘルパーを活用し、読み聞かせをした。図書室を整備したりした。国語科の学習と関連する図書を学年の廊下に設置し、児童の読書意欲を高めた。	A	読書ボランティアの活用を増やし、読み聞かせを充実させたことで読書に親しむ児童が増えた。また、本の購入を積極的に行ない、図書室の蔵書の充実を図った。朝自習に週4回10分間読書を取り入れたり、読書週間で読書の奨励をしたりしたので、児童の読書量が増えた。中休みや昼休みに校長・教頭が「ひまわり」の暗唱に来る児童の成果を認めたので、意欲的に暗唱に取り組む児童が増えた。
重点目標2	「あいさつ」を中心に、よりよい学校生活を送るための意識付けと指導を行う。	運営・計画委員会が、年に4回「スマイルあいさつプロジェクト」(挨拶週間)を開催し挨拶の習慣化を図った。	B	教師の支援のもと、運営・計画委員の児童が、「スマイルあいさつプロジェクト」(挨拶週間)を年に4回開催した。全校児童に「挨拶の振り返りカード」を配布し、自分の挨拶を振り返らせることで、気持ちのよいあいさつができるようになった。多くの地域住民の方からも池田小学校の児童は進んで挨拶をするという評価されている。
	全校児童が進んで体力向上に取めるように指導計画を立てて実践する。	子どもたちの手による「大縄跳び大会」の運営や「縄跳び月間」を設定したことにより、子どもたちが自然に運動と親しんだ。	B	運営計画委員会が企画したチームワークや持久力や俊敏性を高めるための「大縄跳び大会」や、持久力を高めるための「マラソン週間」の取組を通して、全校の子どもが体力づくりに取り組み、休み時間に体を動かすことの楽しさを味わった。
	養護助教諭が保健指導、栄養士が食に関する指導の学習支援を行う。	養護助教諭が発育測定後の保健指導を実施した。栄養教諭が家庭科の学習と全学年の学級活動での食に関する指導の学習支援を行った。	B	養護助教諭が、性教育やたばこの害など毎学期テーマを決めて全学級を対象に指導・支援に当たった。栄養職員が全学年の食に関する学習(学級活動)で資料を提供し指導・支援に当たった。その成果として、児童自身が自分の健康を守ることに意識を高めた。
重点目標3	特別支援教育や人権教育の視点に立った子どもの見取りと、個に応じた生活及び学習指導を推進する。	特別な支援を要する子どもへの組織的な対応・支援を実施するとともに、個に応じた指導により基礎・基本の定着を図った。	B	特別な支援を要する児童について、生徒指導・特別支援教育連絡会やケース会議を定期的に関き、組織的に対応することができた。少人数指導を全学級で計画的に実施して学習面で課題のある子どもに寄り添うことで、学級の中で協力し合う関係をつくり出すことができた。
	生活科や総合的な学習の時間を通して、保幼小連携や年長者や特別支援学校の児童と交流する取組を積極的に実施する。	1・2年生は生活科で園児との交流活動、6年生は総合の時間に保育士体験、1年生は特別支援学校の児童と交流、1年生の生活科と3年生の社会科では年長者に学ぶ活動、特別支援学級と介護年長者施設との交流等を実施した。	A	1・2年生の園児との交流学習では、園児の世話をしようとする意識が芽生えた。6年生の保育士体験では、リーダーシップや年少者へのいたわりの心が芽生え、自己肯定感をもつことにつながった。1年生の交流学級では、特別支援の必要な児童への共感的な理解が深まった。また、特別支援学級による施設訪問や、1年生の生活科と3年生の社会科学習を通して、年長者との交流が本校の特色として定着した。
	「いじめのない学校」をめざし、いじめに関するアンケートとアンケート結果をもとに担任との面談を実施する。	いじめに関するアンケートを学期ごとを実施し、アンケート結果をもとに担任が休み時間やドリルタイムの時間を活用して、別室で一人一人の児童との面談を実施した。教職員の連絡を密にとり、いじめの発生を防いだ。家庭との連携を行った。	A	「いじめのない学校」をめざし、アンケートや面談を行った。児童が、いじめと考えている事案を個別の面談等で検証したが、全てけんかや児童が動揺していたことが判明した。また、いじめの兆候が出たときは、教職員が一体となって適切に取り組んだり、保護者にも連絡したりして、小さな芽のうちに解決していった。ネットトラブルなど新たないじめの形態について保護者へも知らせ、いじめを許さない意識を高めた。

※評価(例) A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった
 ※各校の実情に合わせ、欄を大きくしたり、増やしたりすること。
 ※重点目標の欄については、必要に応じて欄を増やすこと。 ※報告書は2頁を超えてよい。

<p><留意事項></p> <p>記入にあたっては、下記の取組に関する評価項目・取組状況等(校内体制を含む)について必ず加えてください。</p> <p>① 学力・体力向上プランの内容に沿った学力・体力向上の取組</p> <p>② いじめ問題解決のための取組</p> <p>③ 特別支援教育推進のための取組</p> <p>④ あいさつの取組</p>

自己評価を実施した結果等について、以下の項目を記入してください。 池田小 学校・園

○ 保護者や地域に対し、自己評価の結果等をどのような形で情報提供・発信をしましたか。当てはまるものすべてに○印を付けてください。

① 学校ホームページ	○
② 学校便り(学校通信)	○
③ PTA広報誌等	
④ 自己評価結果報告書	○
⑤ 直接説明する機会を設定	○
⑥ その他()	

※ 自己評価結果等の公表については、学校ホームページにおいても行ってください。学校が重点的に取り組んでいる内容や方策、評価結果の考察や改善策について情報提供・発信してください。

また、学校によさや特色について、そして何より、幼児児童生徒や先生たちのがんばりを積極的に発信していただきますようお願い致します。そうすることで、保護者、地域住民等からの理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを推進していただきたいと考えます。